せんだいゼロカーボン市民会議2026　Q&Aリスト

①事前アンケートから

質問内容	回答	参考サイト・出典
家庭での取り組みに関して		
・ゼロカーボン活動に、個人としてどのくらい、何を行えば寄与できるのか知りたい	脱炭素につながる行動は「使っていない電気を消す」「食品を購入するときは棚の手前にある商品を選ぶ」など、日常生活から取り組めるものもたくさんあります。そのような行動を含め、皆さまに取り組んでいただきたい脱炭素行動を「脱炭素行動の指針」としてまとめております。 また、仙台市杜の都ゼロカーボンサイトで日常でできる省エネ行動のCO2削減効果をお知らせしているほか、せんだい環境webサイトたまきさん内のせんだいE-Actionページ上で、無理なく気軽に実践できる「省エネヒント集」を掲載しています。	（仙台市ホームページ）脱炭素行動の指針 https://www.city.sendai.jp/ondanka/kurashi/machi/kankyohozen/chosa/suishin/documents/r803kanmatsusiryou.pdf 杜の都ゼロカーボンサイト https://sendai-zerocarbon.jp/results/useful/
・日々の生活から脱炭素運動につながる行動などあれば教えて欲しい		
・家庭で無理なく取り組める省エネ方法や、電気代の削減につながる具体的な工夫について聞いてみたい		（せんだいE-Actionホームページ）省エネヒント集 https://www.tamaki3.jp/e-action/hint/
・省エネ家電や断熱などに利用できる補助制度があれば、どのようなものがあるのか知りたい	本市ではご家庭のゼロカーボンを応援する様々な支援事業の情報を「おうちのエコ・トク」として分かりやすくまとめています。補助金の種類によっては国や県が実施しているものもあるため、そちらも合わせてご覧ください。	おうちのエコ・トク(家庭向け省エネ補助金情報） https://www.city.sendai.jp/ondanka/ouchi/zerokarbon.html 国や県の省エネ等に関する補助金情報（家庭向け） https://www.city.sendai.jp/ondanka/kurashi/machi/kankyohozen/kurashi/hojokin/katei.html
・個人宅レベルで活用できる仙台の脱炭素への取り組み	省エネ・創エネ・蓄エネの3Eを実践する「せんだいE-Action」や、高断熱住宅の普及を目指した「仙台市高断熱住宅普及促進協議会」などを通じ、市民の皆様が身近なところからできる取り組みを紹介しています。また、せんだいE-Actionの実行委員も診断士として活動している「うちエコ診断」では、ご家庭のライフスタイルに合わせた省エネの取り組みなどを提案しています。Web上で簡易的に診断を行うこともできるため、活用ください。	せんだいE-Actionホームページ https://www.tamaki3.jp/e-action/ 仙台市高断熱住宅普及促進協議会ホームページ https://sites.google.com/view/sendai-koudannetsukyougikai/ うちエコ診断webサービス https://webapp.uchieco-shindan.jp/

市の取り組みに関して		
・仙台市は、ゼロカーボンに向け、どの様な取り組みを行っているのかを聞いてみたい	本市では、地球温暖化対策に率先して取り組むため、市民・事業者との協働のもと、温室効果ガスの排出を抑えるとともに、気候変動による影響に備えるなど、様々な取り組みを実施しています。主な施策として「おうちのエコ・トク」をはじめとした家庭向け脱炭素支援事業や、「温室効果ガス削減アクションプログラム」を中心とした事業者向け脱炭素支援事業、定禅寺通エリアをはじめとする「脱炭素先行地域づくり推進事業」などを行っております。他にも様々な取り組みを行っていますので、詳しくはホームページをご覧ください。	仙台市の地球温暖化対策 https://www.city.sendai.jp/ondanka/kurashi/machi/kankyohozen/kurashi/taisaku/index.html

・市の施設では空調設備などの省エネ化はどの程度進めているのか	本市では事務事業に伴う環境負荷低減を図るため「仙台市環境行動計画」を策定し、庁舎や施設の省エネ化を推進しています。また、取組みの実績については、毎年度、市ホームページで公開しており、LED照明の導入割合は23.8%（令和6年度時点）、高効率機器の導入等により庁舎・施設からの二酸化炭素排出量は前年度比で11.8%削減（令和６年度実績）等となっています。 また、本市ではゼロカーボンシティの実現に向け、市が率先して建築物のZEB(Net Zero Energy Building、省エネや再生可能エネルギーにより、エネルギー消費量を可能な限り削減した建築物)化に取り組むことが重要であると考え、「仙台市公共施設 ZEB 化方針」を定め、新築および大規模改修時にZEB化に取り組むこととしています。	仙台市環境行動計画 https://www.city.sendai.jp/kankyo-chose/documents/r7_sendaishi_kankyokoudoukeikaku.pdf 仙台市環境報告書 https://www.city.sendai.jp/kankyo-chose/kurashi/machi/kankyohozen/chosa/sendaishi/hokokusho.html 公共施設のZEB化推進 https://www.city.sendai.jp/datsutanso-suishin/taiyoukou/koukyou.html
・民間の建物を庁舎の分室に利用するメリットはあるのか	現在の市役所本庁舎については、以前より老朽化、庁舎の分散化、維持管理費など経済性の問題等の課題がありました。現在、令和10年度供用開始予定で市役所本庁舎の建て替えを行っており、課題の解決のほか、環境性能の向上（ZEB Ready認証取得や太陽光発電の導入等）など機能強化も進めることとしています。	仙台市役所本庁舎建て替え事業 https://www.city.sendai.jp/tatekae/kentoujoukyou.html
・電気自動車の補助金が東京はとても手厚いのに対し仙台市はほぼないようだが、ゼロカーボンを目指す都市として、市民にとって生活に身近である物の補助金の拡充についてはどう考えているのか	仙台市では電気自動車の導入促進のため、事業者が電気自動車を導入する際に補助金を支給しています。限られた財源の中で事業を行う必要があることから、ご家庭向けの補助金については、特に力を入れて取り組んでいる太陽光発電・断熱改修を中心に右記のとおり補助金を設けています。 電気自動車への直接の補助金はありませんが、導入につながるものとして、太陽光発電で創った電気を電気自動車に充電することに加え、電気自動車のバッテリーに蓄えられた電気を住宅で使えるようにする「V2H」というシステムの導入費に補助をしています。 なお、電気自動車の購入に際しては、国において補助金を支給しています。	おうちのエコ・トク(家庭向け省エネ補助金情報） https://www.city.sendai.jp/ondanka/ouchi/zerokarbon.html 家庭向けV2H充放電設備設置費補助金 https://www.city.sendai.jp/kankyo/energyjiritsu/v2h.html

再生可能エネルギー関連について		
・化石燃料依存が高い傾向にある中、どう再生エネルギーに移行していくのか	再生可能エネルギーのさらなる普及促進のため、仙台市地球温暖化対策推進計画において、2030年度に805MW導入する再生可能エネルギーの導入目標を定めています。（2024年度実績は508MWです。） この目標は、国の施策による導入見込量に、仙台市独自の施策による導入見込量を積み上げて再生可能エネルギーの種類ごとに目標を設定しています。 本市独自の施策としては、主に太陽光発電の導入を促進することとしており、そのことによる導入見込み量として66MW、そして令和９年度から導入する「新築建築物への太陽光発電導入・高断熱化促進制度」によって34MWの導入効果があるものと試算しています。 これらの取り組みを通じ、化石燃料への依存を下げ、持続可能なまちづくりを目指してまいります。	新築建築物への太陽光発電導入・高断熱化促進制度 https://www.city.sendai.jp/datsutanso-suishin/taiyoukou/seidogaiyou.html
・費用のかからないソーラーパネルの個人設置方法	事業者が初期費用を一時負担して住宅に太陽光発電設備を導入し、その発電電力を利用する「初期費用ゼロ」の方法があります。初期費用ゼロは、発電された電気を優先的に消費し、その消費分を電気代として支払う「電力販売契約」や、長期間リースして毎月決まった料金を支払い、余剰な電力は売電できる「リース契約」などがあります。それぞれ特性があるため、ニーズにあった導入方法を選択することが重要です。	（一般社団法人太陽光発電協会）初期費用0円ソーラーサービスについて https://www.jpea.gr.jp/house/third_party/about/
・太陽光発電以外に個人で作れる再生可能エネルギーはあるのか	太陽光発電以外の再生可能エネルギーは、一般的にスケールの大きい設備が必要となっています。個人のお住まいで活用できるものとしては太陽熱利用（屋根に降り注ぐ太陽熱を集熱器に効率よく取り込み、家の中の暖房や給湯に利用するエネルギー源）や空気熱（空気から熱を吸収することによる温熱供給するエネルギー源）、地中熱（地表近くに蓄えられた太陽由来のエネルギー源）などが挙げられます。	（資源エネルギー庁）再生可能エネルギーとは https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/renewable/
・全戸建に太陽光発電を義務化できないか	太陽光パネルは重量があるため、設置を想定せずに建てた既存住宅は建物の耐荷重が十分ではない場合があること、屋根の方角や形状によって設置が適さない場所もあることから、全戸への設置義務づけは難しいと考えています。 既存住宅への設置を検討する際は、パネルの重量などを把握し、地震、風圧、積雪時なども含め、施工業者と相談しながら建物の安全性を確認しましょう。	（仙台市太陽光ポータルサイト）太陽光発電の設置・利用時の留意点 https://www.city.sendai.jp/datsutanso-suishin/taiyoukou/ryuiten.html

・原子力発電は必要か	原子力発電を含むエネルギー政策については国策として取り組まれているものであり、国がエネルギー資源の状況などを勘案しつつ、安全性の確保を大前提とした上で、電力の安定供給や経済性、環境性などの観点を踏まえながら、その在り方について判断すべき事案であると考えております。	
・小規模水力発電について	本市水道局では一部施設で小水力発電設備を導入しております。市域の水力発電量についてはほぼ横ばいの状態にあり、年間導入量は12.1MW程度となっています。	仙台市水道局の再生可能エネルギーの活用事例 https://www.suidou.city.sendai.jp/soshiki/josui-shisetsu/torikumi-tokei/232.html
・大雨で太陽光発電設備がショートするなどの危険性について	太陽光パネルは、浸水・破損した場合でも発電することがあります。仮に水没・破損した場合は、感電する恐れがあるためむやみに近寄らず、水が引いた後でもそのまま使用（通電）せずに、施工業者等に相談してください。	（仙台市太陽光ポータルサイト）太陽光発電の設置・利用時の留意点 https://www.city.sendai.jp/datsutanso-suishin/taiyoukou/ryuiten.html

国、世界の動向について		
・脱炭素に向けた世界の動向	平成27年（2015年）にCOP（条約締約国会議）21で採択された「パリ協定」では、世界共通の長期目標として、産業革命前からの地球の平均気温上昇を1.5℃未満に抑えるよう努めることなどが定められました。昨年（2025年）のCOP30では、パリ協定の目標達成に向けて国際的な協力の強化などが盛り込まれた「グローバル・ムチラオ決定」が採択されるなど、世界規模で脱炭素の取り組みが加速してます。	（JCCCA　全国地球温暖化防止活動推進センター）パリ協定 https://www.jccca.org/global-warming/trend-world/paris_agreement （環境省　記者発表資料）国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）、京都議定書第20回締約国会合（CMP20）及びパリ協定第７回締約国会合（CMA7）が開催されました https://www.env.go.jp/press/press_01793.html
・全国的に脱炭素の取り組みがどのくらいされているのか	政府では令和３年に策定した地球温暖化対策計画において「2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46％削減すること」「2050年度のカーボンニュートラル」を目標に掲げ、国策として取り組みを進めています。 また、令和８年10月現在、ゼロカーボンシティ宣言を行った自治体は1,200以上であり、各自治体が策定した地方公共団体実行計画のもと、脱炭素の取り組みを進めています。	（環境省）地球温暖化対策計画 https://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/211022.html （脱炭素地域づくり支援サイト）地方公共団体実行計画取組状況 https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/local_keikaku/sakutei/#local_keikaku

地球温暖化について		
・私が小さい頃から地球温暖化対策という話があったが、現時点で抑止できているのか。抑止できていないならその主な原因はなにか。個人の感覚としては年々暑くなり、効果を感じられていないため。	地球温暖化は既に進行してきており、本市においても2024年時点で100年前と比較し日平均気温が2.8℃上昇するなど気候変動とその影響が観測されています。 現在なお温暖化が進行している要因として、長期的に世界規模で温室効果ガスが増加していることが挙げられ、1990年に205億トンだったエネルギー起源の二酸化炭素排出量が2023年は347億トンに急増しています。 2015年に採択された国際的な枠組みである「パリ協定」に基づき、各国が温室効果ガスの削減目標を定めて取り組みを進めているものの、仮に削減目標を達成したとしても、直ちに気温上昇などを抑止するのは困難です。そのため、避けることが困難な気候変動による影響に対し、被害の回避や軽減を図る「適応策」を進めることも重要になっています。	（仙台市ホームページ）地球温暖化の緩和策と適応策 https://www.city.sendai.jp/ondanka/kurashi/machi/kankyohozen/kurashi/taisaku/kanwatekiou/kanwatekiou.html
・以前、先進国は今まで発展のために温室効果ガスをたくさん排出してきたにも関わらず、発展途上国含め温室効果ガス排出量の制限をもうけるのは不公平感があると聞いたことがある。国家間だけでなく、組織間・個人間でも定められたルール（例：ゴミ分別）を守る組織や人が損をして結局破った側が得なのではないか。	地球温暖化に関しては、対策を義務化したり、ルールを守らなかった側にペナルティを課す（あるいはルールを守った側にインセンティブを与える）などの取り組みが、国家間や、社会経済の仕組みの中で少しづつ進んでいます。 地球温暖化は現に進行しており、対策をやめることは、長期的には社会全体にとって非常に大きな不利益に繋がるものです。そのため、不公平感のない仕組みづくりを進めながら、一人ひとりができるところから取り組みを進めていくことが大切です。	
・近年降雨量が増加している件	本市でも、近年日降水量が50ミリ以上の大雨日数が増加傾向にあり、今後気候変動に対する追加的な対策を取らなかった場合、21世紀末はより極端な雨の降り方になるというシミュレーション結果も出ています。	（仙台管区気象台）東北地方のこれからの気候の変化（将来予測） https://www.data.jma.go.jp/sendai/knowledge/climate/region/tohoku/future.html

その他		
・この取り組みを始めたきっかけ	ゼロカーボンシティの実現のためには、行政が取り組むだけではなく、市民の皆様に脱炭素を「自分ごと」として捉え、日常生活の中で取り組んでいただくことが重要であると考えています。 そのため、単純に希望を募るのではなく、無作為で抽出した方にご案内させていただくことで、日頃脱炭素をあまり意識していない方へもご案内する形としました。 参加いただく皆様には、ご自身の目線で「生活に身近なところから進められる取り組み」を考えていただくとともに、それを周りへどう伝えていくかも考えていただき、実際に取り組んでいただきたいとの思いから、本会議を開催することとしました。	
・学校の授業でエネルギーミックスを考える課題が出ていて、太陽光・風力の設備の国内自給率が低いことや、原子力発電の採算の現実性などを通して考えたとき、石炭による発電や、太陽光による温水器などを設置すべきという考え方があった。採算の取れる現実的なエネルギーミックスを考えないことにはこの会議は進まないように思えるため、エネルギーミックスをどのようにバランスするか、またするべきか、お答え願いたい（具体割合とともに）	国は日本のエネルギー政策の指針となる「第7次エネルギー基本計画」を策定し、特定の電源や燃料源に過度に依存しないバランスのとれた電源構成を目指すとしており、各地方自治体はこの方針に基づいて、それぞれの地域特性や地理的条件を踏まえた取り組みを進めています。 本市では「仙台市地球温暖化対策推進計画」において、太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーの普及促進のほか、ごみ焼却により発生する熱の温水プール等での活用、重油等から都市ガスへの燃料転換など、様々な手法の組み合わせにより脱炭素型のエネルギーシステムの構築を目指すこととしています。 一方、温室効果ガスの排出削減に向けては、再生可能エネルギーの普及拡大が不可欠であり、大都市であり建築物が多いという本市の特性を踏まえ、そのポテンシャルを活かした屋根置きの太陽光発電の導入に重点を置いて推進することとしています。本市の計画では「2030年度までに再生可能エネルギーを805MW導入」を目標に掲げ、そのおよそ70％にあたる569MWを太陽光発電により導入することとしており、上記のような多様な手法やエネルギーも活用しながら、取り組みを進めてまいります。	（資源エネルギー庁）エネルギー基本計画について https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/ 仙台市地球温暖化対策推進計画 https://www.city.sendai.jp/ondanka/kurashi/machi/kankyohozen/chosa/suishin/index.html
・近年の大災害から巨額なインフラが一瞬で断たれるのを感じる。私は車社会が肥大化し続ける現状を高校生の時から心配してきて、多くの人が週に数回バスや鉄道を使えば温室効果ガスが減ると感じてきた。例えばバスの時刻表に終点までの運賃をシールで貼るなど少しの工夫でできることをより簡単に発信できる社会になってほしい。	公共交通機関の利用も脱炭素に資する取り組みであり、本市でも環境にやさしい交通手段の利用促進を市民の皆様へ呼びかけております。いただいたご意見をもとに、引き続き普及啓発に努めてまいります。	